

経営比較分析表（令和6年度決算）

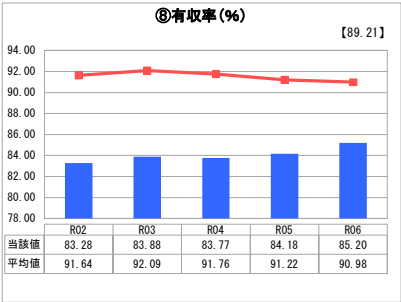
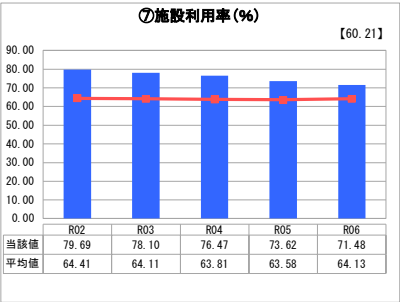
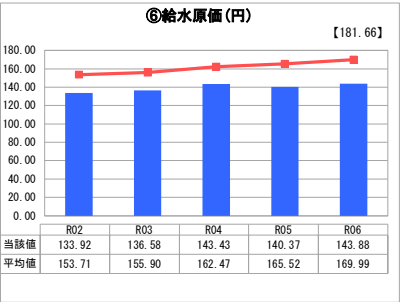
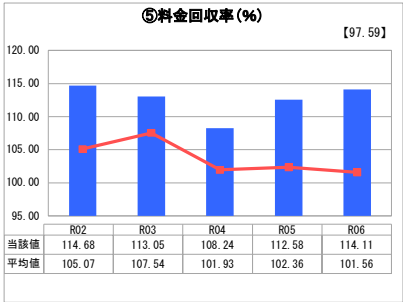
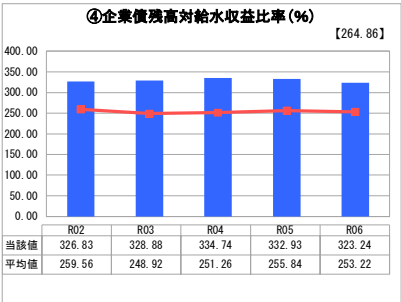
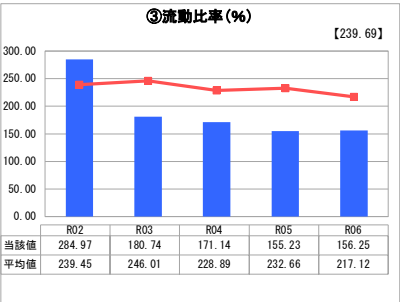
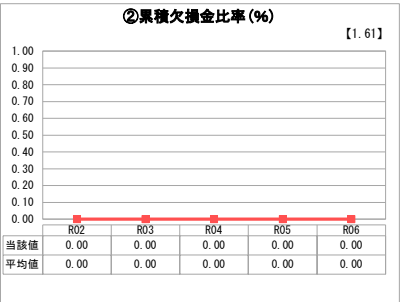
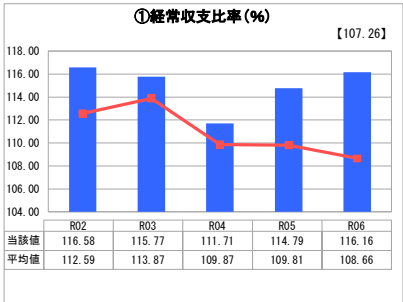
群馬県 群馬東部水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	75.08	99.49	2,750	

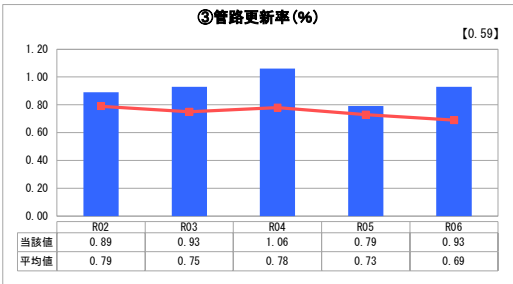
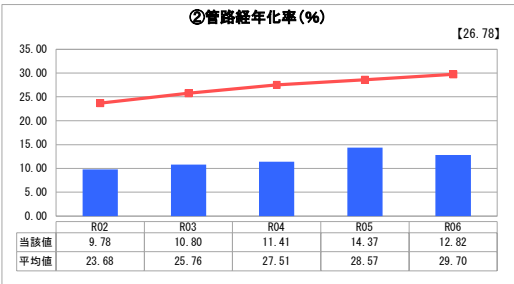
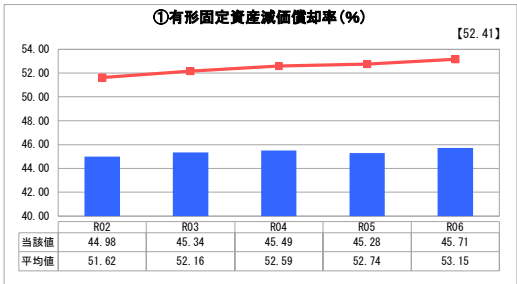
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
444,181	423.20	1,049.58

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①「経常収支比率」は、交付金の活用による浄水施設や管路更新に伴う減価償却費の増加と物価高騰の影響により費用が増加したものの、料金改定による給水収益の増収により上昇した。
- ②「累積欠損金比率」は、0%であり、累積欠損金は発生していない。
- ③「流動比率」は、現金預金残高の増加により前年度に比べ微増した。
- ④「企業債残高対給水収益比率」は、令和6年度までは、広域化に伴う交付金や企業債を活用し事業を行っているため、企業債残高は横ばいであるが、令和5年度から激変緩和措置を適用した料金改定を行ったことにより給水収益が増加したため、前年度に比べ減少した。
- ⑤「料金回収率」は、給水収益の増収及び費用の減少により上昇した。
- ⑥「給水原価」は、有収水量の減少により数値は増加した。
- ⑦「施設利用率」は、給水人口の減少や節水機器の普及などにより1日平均配水量が減少したため前年度よりも数値は減少したものの、広域化により施設の統廃合を行っているため、類似団体よりも高い数値で推移している。
- ⑧「有収率」は、老朽化した管路の更新や漏水調査の実施により上昇したものの、類似団体と比べると下回っているため、今後も有収率を向上するための取組が必要である。

2. 老朽化の状況について

- ①「有形固定資産減価償却率」は、老朽化資産の更新を計画的に行っているため、数値は横ばいで類似団体と比べて低い数値で推移している。
- ②「管路経年化率」は、交付金等を活用して行った布設替の管路が増加したため減少した。
- ③「管路更新率」は、積極的な配水管の更新により増加した。

全体総括

経営収支比率は上昇し100%を上回っており、各指標からも経営の健全性・効率性はおおむね良好と言えるが、企業債残高対給水収益比率は類似団体より上回っているため、広域化に伴う交付金が終了となる令和7年度以降の建設改良事業の実施は、現金預金残高とのバランスを検討しなければならない。

料金改定の実施により給水収益は増加したが、物価高騰や人件費等の上昇による費用の増加が見込まれるため、創意工夫により費用の削減をしながら計画的に事業を実施し、健全経営に努めている。